



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

(代表電話) 03-3964-1141

(予約専用電話) 03-3964-4890

ホームページ <http://www.tmg Hig.jp/>

第137号 (平成30年1月号)



平成30年新年のご挨拶

東京都健康長寿医療センター
センター長 許 俊鋭



新年あけましておめでとうございます。

新年を迎え、今年も皆様にとって実り多い年となりますようお願いしております。また、昨年中は、東京都健康長寿医療センターに多大なるご支援、ご鞭撻をいただき心から感謝申し上げます。

平成25年の新施設移転後4年が経ち、心臓病、大動脈瘤などの血管病、脳卒中、がん、認知症、肺炎・慢性閉塞性肺疾患などあらゆる高齢者疾患の診療、介護予防に積極的に取り組んできました。高齢者の高度急性期医療を担う病院としてハイブリッド手術室など高度先端医療機器を充実させると共に、最先端医療からお年寄りにより添う医療まで、患者さまに必要な医療を提供させていただいています。

一方、高齢の患者さまは複数の病気を持つ方が多く、認知症、フレイル(虚弱)、サルコペニア(筋力低下)、ロコモティブ症候群(歩行障害)などにより入院が長引きがちです。そのため、患者さまのお身体の負担の少ない低侵襲治療が望ましく、当センターでは、消化器がんに対する消化器内視鏡手術(ESD)・腹腔鏡手術、肺がんに対する胸腔鏡手術、胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療、高齢者大動脈弁狭窄に対する経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)など、極めて技術度の高い低侵襲治療を積極的に行っています。TAVIはこの1年間で20症例以上実施しました。

医療費の増大が懸念される中、高度急性期病院の在院日数の短縮は責務ですが、ご自宅に戻られる前に2週間程度長く入院していただける地域包括ケア病棟(37床)を平成28年10月に開設、平成29年11月には脳卒中ケアユニット(SCU6床)を開設し、患者さまのニーズに合った病床機能の再編も積極的に進めています。

700名を超す地域連携医のご支援により、高度急性期医療から在宅医療まで区西北部二次医療圏における一貫した地域包括ケアシステムの構築に貢献すべく努力し、高齢の患者さまへの「優しく温かい医療」を提供して参ります。本年もご指導、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



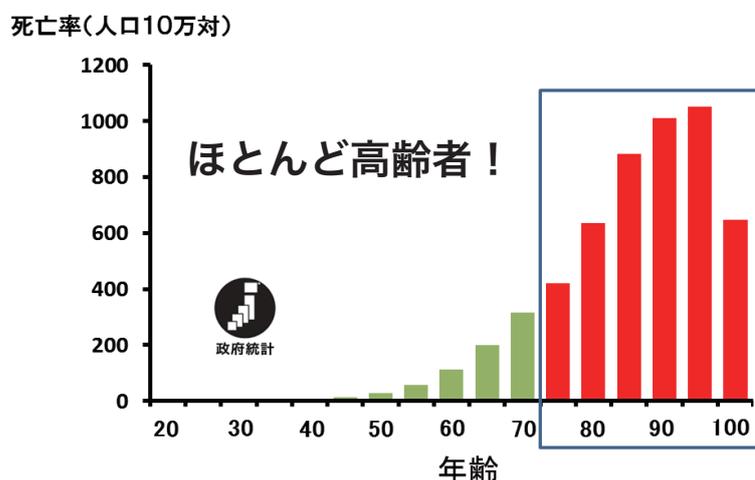
高齢者の肺がん治療の進歩

呼吸器内科 部長 山本 寛

がんと付き合い方を考える時代

一生のうち、がんになるのはおよそ2人に1人、がんで亡くなるのはおよそ3人に1人という時代になりました。一生涯で何種類かのがんにかかることもまれではありません。特に、肺がんの死亡率が目立って増加しています。2015年の厚生労働省人口動態統計から算出すると、肺がんで亡くなる方の86%が75歳以上の高齢者でした¹⁾(図1)。しかし、高齢者は、「できるだけ長く元気に自立して生きていきたい」と考えている方が多いと思います。幸い、最近の薬物療法の進歩は、この究極の理想の実現に向けて大きな期待を抱かせてくれます。治療を行うことによって、辛い症状を可能な限り先延ばしにし、その間の生活機能を維持していくことが、現実的に可能になってきているのです。「がんと戦わない」ことを選ぶ前に、まず「がんとどう付き合い合っていくか」を考えてみてはいかがでしょうか。

図1 肺癌で亡くなる方の86%が75歳以上の高齢者



政府統計の総合窓口 (e-Stat) (<http://www.e-stat.go.jp/>)
人口動態統計 2015年 より改変引用

肺がんの治療の進歩

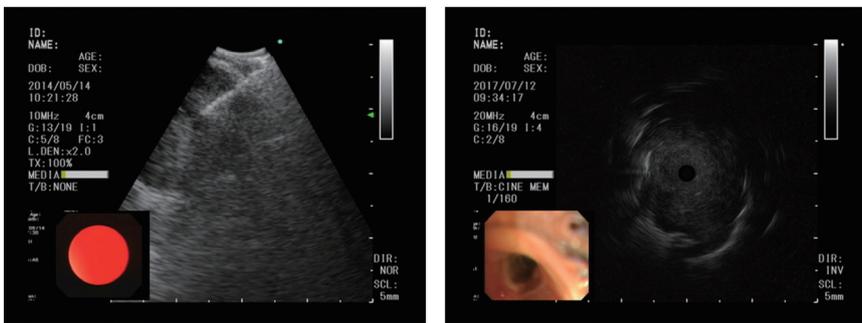
～細胞障害性抗がん剤から分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬へ～

20年ほど前は、細胞障害性抗がん剤という、世にいう「抗がん剤」しか選択肢がなく、これを用いても半年生きるのが精一杯で、しかも治療の有害事象との戦いはとても凄惨なものでした。しかし、その後、抗がん剤はどんどん進化し、抗がん剤の有害事象を減らす薬も進歩してきました。今では多くの場合、安全に抗がん剤治療を続けられるようになり、その効果という点でも、1年から2年くらいの生命予後が期待できるようになりました。

最近では、「分子標的薬」という薬剤が開発され、これによって遺伝子に傷のついたがん細胞だけを標的にした治療をすることが可能になりました。こうした遺伝子変異がある人には圧倒的な効果を、少ない有害事象で期待できるようになりました。ただし、遺伝子の異常がないがんには全く効果が得られませんので、遺伝子の異常のタイプを事前にき

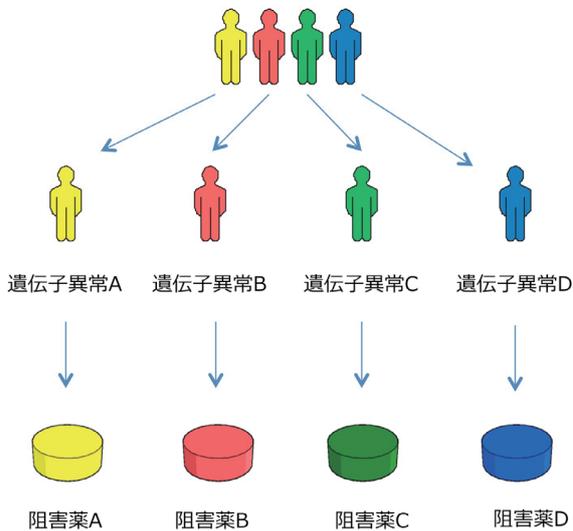
ちんと調べておく必要があります。2017年12月現在、肺がんではEGFR 遺伝子変異、ALK 遺伝子転座、ROS1 遺伝子転座という3つの遺伝子異常があればこれに対する分子標的薬を選ぶことができます。どのような遺伝子異常があるかは、がん細胞を含む組織を気管支鏡検査などで採取して調べる必要があります。当センターでは超音波で病変の位置を確認しながら正確な生検診断を行っています（図2）。近い将来、遺伝子異常のパターンを一気に調べ、それによって薬を選択できるようになるでしょう。テーラーメイド医療は私たちのそばまでやって来ているのです（図3）。

図2 超音波を用いた正確な生検診断を行っています。



超音波気管支鏡下経気管支穿刺吸引生検（EBUS-TBNA）（左）とガイドシース併用気管支腔内超音波断層法（EBUS-GS）を用いた末梢腫瘍生検（右）。超音波を用いて正確に腫瘍を見定め、ピンポイントに組織を採取します。

図3 テーラーメイド医療



原因となる遺伝子異常によって
どの薬が体に合うかを決めていきます

実は、人間の体の中には、もともと自分の体にはない「異物」がないかパトロールしている細胞がいて、「異物」であるがん細胞をみつけるとこれを退治する部隊を動員して駆除してくれます。しかし、がん細胞はこの免疫細胞に駆除されないような能力を得て増殖していきます。最近、免疫細胞の攻撃を回避する力を獲得したがん細胞に対して、再び免疫細胞が攻撃できるようにする新たな薬剤が開発されました。これが「免

疫チェックポイント阻害薬」と呼ばれる薬剤で、抗がん剤による従来の標準治療と比較して生存期間を延長し、一方で重篤な有害事象の頻度が少ないことが証明されています。免疫関連有害事象という、特有の副作用が問題になることもあり、厳しい対象者チェックをした上で適応がある場合にのみ、この治療を受けることができます。

出典 1) 政府統計の総合窓口（e-Stat）（<http://www.e-stat.go.jp/>）人口動態統計 2015 年

高脂血症の治療に用いる薬

薬剤科 瀧川 正紀

はじめに

コレステロールや中性脂肪の値は気になる検査項目の一つです。コレステロールや中性脂肪は人間の体内で重要な役割を果たす一方、高すぎる状態（高脂血症）が続くと動脈硬化が進み、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞など、重大な病気の原因となることが知られています。高脂血症の治療薬は様々なタイプのものがあり、最近では新しい薬も登場しました。今回は、当センターで使用されている高脂血症治療薬についてご紹介します。

高脂血症の薬

以下に当センターで使われている高脂血症治療薬と、それぞれの薬効を示します。

▶ HMG-CoA 還元酵素阻害薬

(アトルバスタチン錠、クレストール錠、シンバスタチン錠、ピタバスタチン錠、プラバスタチン錠など※)

肝臓でのコレステロール合成を抑えます。

▶ フィブレート系薬剤

(トライコア錠、ベザフィブレート SR 錠など※)

肝臓内で中性脂肪（トリグリセリド）の合成を抑えます。また、善玉コレステロール（HDL コレステロール）を増加させる効果があります。

▶ 小腸コレステロールトランスポーター阻害薬（ゼチーア錠）

小腸でのコレステロール吸収を抑えます。

▶ 陰イオン交換樹脂薬（コレバインミニ 83%）

消化管内でコレステロールを吸着します。

▶ 多価不飽和脂肪酸製剤

(イコサペント酸エチル粒状カプセル、エパデール S、ロトリガ粒状カプセル)

血液中の中性脂肪を下げると同時に、血液の固まりができるのを防ぎます。

※院内採用薬。院外処方では他製品あり。

コレステロールを下げる新しい薬 抗 PCSK 9 モノクローナル抗体製剤

昨年、新たなタイプの高コレステロール治療薬「抗 PCSK 9 モノクローナル抗体製剤」が発売されました。現在、「レパーサ皮下注（成分名：エボロクマブ）」、「プラルエント皮下注（成分名：アリロクマブ）」の2種類があり、どちらも注射薬です（図）。病院の外来などで注射するほか、使い方を覚えればご自宅で注射することも可能です。これらの薬は、悪玉コレステロールと呼ばれる LDL コレステロールが、肝臓に取り込まれる際の入口となる部分を邪魔する PCSK 9（ヒトプロタンパク質転換酵素サブチリシン/ケキシシ9型）という物質の働きを阻害します。これらの薬は高い効果が報告されていますが、「家族性高コレステロール血症」という、遺伝的にコレステロールが高くなりやすい方や、コレステロールが原因となる重大な病気を起こす可能性が高いにも関わらず、これまでの治療で十分にコレステロールが下がらない方のみ使用可能です。また、これらの薬は従来薬と比べると高価です。



レパーサ皮下注 140mg ペン



プラルエント皮下注 75mg ペン

図 当センター採用の抗 PCSK9 モノクローナル抗体製剤

※写真は当センター採用のペン型製剤（両剤とも他剤型、他規格の販売あり）

最後に

今回は当センターで使用されている高脂血症治療薬をご紹介しました。コレステロールや中性脂肪をコントロールするためには食事内容の見直しや、適度な運動などが重要です。薬が処方されている方は医師の指示通り、正しく服用しましょう。これまでに、家族性高コレステロール血症と言われたことがある方や、医師から特にコレステロールに注意するように言われている方は、新しいタイプの薬について担当医に相談してみるのも良いかもしれません。

患者さまの声

思いもかけない入院となりましたが、看護師や医師の気持ちに触れ、安心感を得られました。また、リハビリを受けることで前向きな気持ちになれました。料理もとても美味しく、今後の参考になりました。

家庭の事情から、継続した受診が難しくなり、今後は親の代からの「かかりつけ医」に診ていただくことになりました。これまでのこと、本当にありがとうございました。

主治医に、センターの他の科の検査を受けたく相談したら、その場で電話確認していただき、待つことなく検査を受けることができました。大変ありがたく感謝しております。

病棟スタッフの皆様、お世話になりました。94才の母が激痛に苦しみ、寝返りもできない状態での入院でした。高齢の母のために声をかけて、少しでも居心地を良くしてあげたいという看護師の思いが伝わってくるような、温かなご対応を惜しまずしてくださいました。ベッドを起こす時の身体の位置ひとつで痛みがでないことを知りました。心から感謝申し上げます。

初めての入院でしたが、看護師の皆さんが優しく、テキパキ手際よく仕事をするし、すごく感じが良かったです。入院当初の不安はすぐ消え、日頃の雑事の何もかも放念して心身を休めることができる環境に、とても助かりました。

「クリスマスコンサート」について

12月13日(水)午後4時から、当センター2階食堂・レストランにて、「クリスマスコンサート」を開催し、患者さまとご家族の方々(約95名)にご参加いただきました。

コンサートでは、センター職員有志を中心に結成された、アルテハイマート合奏団のステージを皆様にお楽しみいただきました。「ジングルベル」・「見上げてごらん夜の星を」・「いつでも夢を」・「シャルウィ・ダンス?」など7曲を演奏しました。

なじみのある曲の美しい調べが、会場を暖かく包み込み、皆さんの顔には笑みが溢れ、患者さまもご家族も共に楽しい癒しのひとときを過ごすことができました。



アンコールでは、「東京ラブソディー」・「あゝ人生に涙あり(水戸黄門のテーマ)」を演奏しました。大きな手拍子とともに会場が一体となり大盛況のクリスマスコンサートとなりました。

当センターでは、これからも患者さまやご家族にとって、音楽を通じてよりよい療養環境を提供できるよう、取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

第149回
老年学・老年医学
公開講座

がんは
ほっとも
まっとう
時代が
来る

平成30年2月5日(月) 13時15分～16時まで(開場12時15分)

板橋区立文化会館大ホール 東京都板橋区大山東町51-1

申込不要・入場無料・手話通訳あり

